

平成27年度ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会 議事要旨

1. 日 時：平成28年3月30日（水） 13:30～15:00
2. 場 所：ホテルアジュール竹芝13階飛鳥の間
3. 出席委員：永田委員長、伊規須委員、酒井委員、田中委員、田辺委員、原口委員、
細見委員、益永委員、宮田委員、森田委員、若松委員

4. 議 題：＜公開＞

(1)平成27年度における各部会の取組状況について

<主なご意見>

- ・北九州 PCB 処理事業所のベンゼン超過に関しては、北九州事業部会として、今後このようなことが起こらないよう、対応していきたい。
- ・処理完了期限までの処理計画のチェック、処理対象物の把握を各事業部会でお願いしたい。
- ・北九州事業部会では、施設の解体撤去が最初に行われるので、検討をして頂きたい。
- ・長期保全計画についても見直しが必要。併せて進捗管理についても各事業部会で見てもらいたい。その意味では事業部会の開催数が足りないように思われるので、各事業部会の座長、JESCO 本社、各事業所で検討を頂きたい。

(2)平成27年度における各PCB処理事業の進捗状況について

<主なご意見>

- ・安定器は今後の処理基本計画の中でも重要な対象となってくるので、台数ベース、重量ベースの両方な面で把握すること。また、他地域の登録状況が見えてくれば全体の進捗傾向も分かると思うので、それを加味したうえで管内の進捗率を把握すること。
- ・北九州でも北海道でも解体作業をやっているわけで、その状況が参考になってもっと血中濃度を下げられる可能性がある。それぞれの事業所間で情報交換をしながら更に下げる努力をしてほしい。
- ・東京事業所だけがトランスよりもコンデンサの進捗状況が悪くなっているが、説明を加えておく必要がある。資料2の3ページを見ると PCB の分解量ベースの進捗率は東京事業所は高い。PCB 処理全体量ベースでは一定の進捗はなされているので、結果的に1台あたりの PCB 保管量の多いものを優先にやってきたと言うようなことを解説して加えてもらえば良い。
- ・進捗率については台数と重量両方で示せるようにすること。
- ・内部技術評価で北九州の事案が見出せなかったことは疑問である。内部評価については事前に各事業部会で検討、提案等をしてほしい。
- ・地域内と事業所間移動の処理実績は分けて記載すること。集計方法は本社で検討すること。

(3)北九州 PCB 処理事業所における排気中ベンゼンの協定値超過について

<主なご意見>

- ・ベンゼン以外の物質もできている可能性はあり、十分に対応されているか。

- ・ 若干のトルエン、アルデヒドができるかもしれないが、発生量があまりにも小さいので対策及び測定をする動機づけはないと考えられる。
 - ←今回ベンゼンが発生したのは真空加熱装置で、施設の設置時に排気系にはベンゼンの他アセトアルデヒドやトルエンが出てくるだろうと予想していたので、ベンゼンとともにこれらもモニタリングしている。アセトアルデヒドやトルエンは排気系のほうに抜けていくので特殊な活性炭で処理をしておき問題ないと認識している。
- ・ 東京事業所では JESCO 社員と運転会社社員全員に意識調査を行った。これを全事業所に広げてほしい。

(4) その他

<主なご意見>

- ・ 次回の委員会については長期保全計画、進捗管理の話など含めて議論をしたいので、夏から秋にかけて開催をしたい。
- ・ 北九州の血中 PCB 濃度が低いレベルに押さえられているということは、個々の作業者の意識レベルが高いことの現れである。
- ・ 作業環境のことやヒヤリハットなどより良い方向に向かうために事業所間で話し合うなど連携しながら進めてほしい。
- ・ 分析技術のレベルが下がっている。また分析結果の間違いを証明するのは簡単なことではないので、自治体及び監督官庁が公的に測定、分析をする場合には、事業所でも並行に測定、分析を行うことをすすめる。

以 上